



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第35号)

2005年11月29日発行

HCJB日本語放送再開延期のお知らせ

日本の短波愛好家に向けたHCJB日本語放送再開は、来年3月頃に延期されることになりました。今年夏、日本をおとずれたHCJBアジア太平洋地区責任者のデニス・アダムス氏は東京新宿の淀橋教会の会議室で開かれた聴取者のつどいで、「HCJBオーストラリア局からの日本語番組送信はクリスマスには再開できるだろう」と語り、このニュースは「日本語放送再開間近の『アンデスの声』」(日本BCL連盟情報誌11月号)、「HCJB日本語放送短波再開は12月」(日本短波クラブ会誌11月号)の見出しでただちに全国に伝えられました。ところが11月28日、アダムス氏からメールがとどき、「エクアドルから100キロワット送信機がオーストラリアにとどくのはかなり遅れそうなので、今年クリスマスの放送再開は見送らざるを得ない」と、つぎのように連絡してきました。

残念ながらピフォ送信所(エクアドル)の作業工程が予定どおりすすんでおらず、目下、現場は人手不足で送信機の解体、梱包、積み出しの一連の作業に取り組めないままでいます。日本語放送にはこの2台目の送信機が欠かせません。皆様に約束していながらこのようなお知らせをしなくてはならないのは心苦しい思いです。現状では送信機のオーストラリア到着は来年3月に持ち越されることになりそうです。私なりにできるだけ早く放送再開が実現できるよう努力しますので、何卒ご了承いただきたいと思います。

「予定は未定にしてしばしば変更することあり」この言葉は一昔前はよくつかわれたものです。「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての苦みには時がある。」(伝道の書)と聖書も教えていますので、その時を待つことにします。とくにエクアドルではそれこそ思いがけない出来事の連続でした。まさに諸行無常で、天変地異、人災事故、政変、盗難、いつ、なにが起こってもおかしくない生活でした。毎日、スタジオに入ってマイクを前に「皆さん今晚は、きょうはいかがお過ごしでしたか。」と見えない聴取者に声をかけながら、今日もさまざまなことがあったのだろうなど、同じ南米に住む日系移住者の家族の無事を願いながら放送をつづけたものです。

エクアドルを離れても40年暮らした南米のことは頭から離れません。先週のことでした。日本から一通の封書がとどき、裏をかえすと見覚えのない名前なので、いったい誰だろうと思いながら封を切りました。

お元気でいらっしゃいますか。私は、30年前ブラジルのマリンガ市で母と一緒に「アンデスの声」を聴いていました。ときどき手紙をおりましたが、いつもそちらからも写真入りカードやエクアドルの美しい絵はがきが添えられたお返事をいたしていました。アンデス山脈の向こうからとどく番組がとても新鮮に感じられたのを今でも覚えています。久子さんの朗読される三浦綾子著「道ありき」や結城潤一郎さんの「バラバ」など夢中でききました。その後、私は地元の大学を卒業して日本に留学しました。そして日本人と結婚したのでそのまま日本で生活するようになりました。ここ富山県立山町は立山連峰がとても美しくみえるところです。結婚して一年後に主人と一緒にプロテスタントの教会で洗礼を受けました。富山県はクリスチヤン人口が少ないそうです。わたしの母は長い間、心臓病や関節炎リュウマチを患い、一昨年から半身不随になってしましましたが、現在は自宅で介護をうけられますので感謝です。私の両親のためにもお祈りいただければ幸いです。20世紀最後の日に「アンデスの声」日本語放送が終了したことを最近知りました。さびしい気がしますが、インターネットで尾崎ご夫妻のお名前を見たとき、嬉しさと懐かしさで胸がいっぱいになりました。「アンデスの声」がとても懐かしいです。どれほど多くの方々がその声で安らぎと楽しみの時を過ごされたことでしょう。心から感謝申し上げます。これからもご夫妻で神様のお働きのために豊かに用いられるることを信じています。いい思い出を本当にありがとうございました。

放送は息の長い働きであり、空を打つような仕事です。「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。」「朝のうちにあなたの種を蒔け。夕方も手を放してはいけない。あなたは、あれか、これか、どこで成功するかを、知らないからだ。」(伝道の書) 晩年の知恵者ソロモン王は自分の人生をふりかえってこのように書き残しました。この手紙が時を同じくして私のもとにとどいたのは偶然とは思えません。この手紙を読みながら、人のこころに蒔かれた種は、必ずどこかで、だれかが手をか

け、育んで、りっぱな実を実らせるようになることをあらためて確信させられました。私たちに任されていることは「星のごとく、急がず、しかし休まず、人それぞれに、神より受けし務めを果たせ。」(ゲーテ)という言葉どおり、上から与えられた使命に、ただ黙って素直に従うことではないでしょうか。歩いているうちは見えなくても、ふりかえったとき、そこに道ができているものです。

HCJB日本語放送担当

在主 尾崎一夫 久子

【ホームページのご案内】

[HCJB日本語放送のホームページ](http://japanese.hcjb.org/)(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://japanese.hcjb.org/forums/)」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmz/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](http://japanese.hcjb.org/)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](http://japanese.hcjb.org/)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。

Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki
1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
